

# ジェンダー視点に基づくSDGs (持続可能な開発目標)の達成

## Achieving SDGs through Gender Perspectives



2019 NWEC リーダーセミナーレポート  
2019 NWEC Leader Seminar Report

ジェンダー視点に基づく S D G s  
(持続可能な開発目標) の達成

Achieving SDGs through Gender Perspectives

**SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS**

## はじめに

国立女性教育会館では、平成 18 年度からアジアおよび太平洋諸国の女性リーダーの能力開発を目的とした国際研修を実施してきました。「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」では、これまで若年女性のキャリア形成や指導的地位への女性の参画等、様々なジェンダー課題をテーマとして設定してきました。2019 年度はジェンダー視点に基づく SDGs（持続可能な開発目標）の達成をテーマとして、10 月 1 日～10 月 5 日の日程で開催し、アジア 5 カ国（カンボジア、インドネシア、韓国、ミャンマー、ベトナム）から、国内本部機構や NGO で活躍している女性リーダー 10 名が参加しました。この小冊子には、日本を含めた 6 カ国における SDGs 推進のための課題や好事例について分析したレポートが収録されています。本書が女性のエンパワーメント推進の一助となれば幸いです。

独立行政法人国立女性教育会館理事長 内海 房子

## Foreword

The National Women's Education Center of Japan has held international seminars for the purpose of developing the capacities of women leaders in the Asia Pacific region since 2006. The Seminar for Gender Equality Officers and Women Leaders in the Asia Region focuses on gender-related themes and has addressed issues such as career development for young women and women's participation in leadership positions.

The 2019 seminar was held from October 1st to October 5th around the theme "Achieving SDGs through gender perspectives" It was attended by ten women leaders active in national machineries and NGOs in five Asian nations: Cambodia, Indonesia, South Korea, Myanmar and Viet Nam.

This booklet comprises a report that analyzes best practices and issues surrounding promoting gender equality and SDGs in Japan and the other five participating countries. It is our sincere hope that this publication will contribute to the promotion of women's empowerment.

Fusako Utsumi, President  
National Women's Education Center

Highlights of  
 2019 Seminar for Gender Equality Officers and Women Leaders in the Asia Region  
 ジェンダー視点に基づくSDGs(持続可能な開発目標)の達成  
 Achieving SDGs through gender perspectives  
 開催期間: 2019年10月1日~10月5日 Date: October 1<sup>st</sup> to 5<sup>th</sup>, 2019



ジョイセフ専門家によるワークショップ  
 Workshop of JOICFP staff

カンントリーレポートの報告  
 Country Report Presentation



国立女性教育会館  
 National Women's Education Center



札幌市男女共同参画センター  
 Gender Equality Center in Sapporo



外務省  
 Ministry of Foreign Affairs



丸吉日新堂印刷株式会社  
 Nisshindo Printing Co. Ltd.



アンビシャスファーム株式会社  
 Ambitious Farm Inc.



修了式  
 Closing Ceremony



# 目次

## Table of Contents

はじめに	Foreword
内海 房子	Fusako Utsumi
国立女性教育会館 理事長	President, National Women's Education Center

### 研修の概要

#### 国別報告

カンボジア王国	2
インドネシア共和国	4
日本	6
大韓民国	8
ミャンマー連邦共和国	10
ベトナム社会主義共和国	12

### Overview of the Leader Seminar

#### Country Report

Kingdom of Cambodia	18
Republic of Indonesia	20
Japan	22
Republic of Korea	24
Republic of the Union of Myanmar	26
Socialist Republic of Viet Nam	28



## 研修の概要

国立女性教育会館では、2019年度アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーを「ジェンダー視点に基づくSDGs（持続可能な開発目標）の達成」をテーマとして、10月1日～10月5日に開催しました。アジア5カ国（カンボジア、インドネシア、韓国、ミャンマー、ベトナム）から、男女共同参画に携わる行政担当者やNGOのリーダー10名が参加しました。この研修は毎年、男女平等に関する喫緊の課題をテーマを定めて実施しており、今年度は日本政府や企業、NGOが実施しているジェンダーに配慮したSDGsの実践事例を学ぶことに主眼をおいています。

### ● 国立女性教育会館での研修

国立女性教育会館滞在中、会館のミッションや男女共同参画の推進機関としての役割などの講義を受講し、女性教育情報センターや女性アーカイブセンターの展示「ベアテ・シロタ・ゴードン展」を見学しました。また研究国際室所属の研究員が平成27年度より実施している、「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」について報告し、3年間のパネル調査から得られた知見を共有したほか、事業課専門職員から5月に実施された「地域における男女共同参画推進リーダー研修」についての情報提供がおこなわれました。研修生からは調査協力企業の選定基準や、リーダー研修の参加者層やテーマ設定についての質問がなされました。研修2日目にはカントリーレポートの報告をおこない、アジア5カ国における最新の男女共同参画政策やSDGsと女性のエンパワーメントに係る課題を共有しました。

### ● NGOの取組みを学ぶ

SDGs推進に関する市民社会の取組みを学ぶため、公益財団法人ジョイセフより講師を招き、開発協力グループの吉留桂さんからお話をうかがいました。ジョイセフは世界の妊産婦と女性の命と健康を守るために活動している国際協力NGOです。講義ではジョイセフがザンビアとミャンマーで実施してきた女性の健康向上のための活動に加え、日本国内で2016年から若年女性のエンパワーメントを目的に展開している、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの意識向上プロジェクト「I LADY.」についても紹介されました。講義の後半では、セミナー参加5カ国の妊産婦死亡率の統計データを用いたワークショップと、ディスカッションをおこないました。

### ● 日本政府におけるSDGsとジェンダー平等推進に係る取組に関する講義

研修3日目には外務省を訪問し、日本政府のSDGsとジェンダー平等推進に係る取組についての講義を受講しました。2015年にSDGsが国連で採択された後、日本政府は2016年5月に総理大臣を本部長とし、全閣僚を構成員とする「SDGs推進本部」を設置し、国内実施と国際協力の両面で率先して取り組む体制を整えました。さらにこの本部の下で、行政、民間セクター、国際機関等を含む幅広い関係者から成る「SDGs推進円卓会議」における議論を経て、同年12月、日本政府の取組指針である「SDGs実施指針」を決定しました。ジェンダー分野では、開発協力大綱（2015年2月閣議決定）に基づく分野別開発政策として、2016年に「女性の活躍推進のための開発戦略」を策定し、①女性と女兒の権利の尊重・脆弱な状況の改善、②女性の能力発揮のための基盤の整備、③政治、経済、公共分野における女性のリーダーシップ向上、を重点分野として支援を行っています。

質疑応答では、SDGs推進のための政府の体制や他省庁との協力などについて、活発な意見交換が行われました。

### ● 北海道でのスタディーツアー

研修の後半では札幌市に移動し、スタディーツアーに参加しました。

#### ①札幌市男女共同参画センター

札幌市男女共同参画センターを視察し、日本国内の女性関連施設の取組みを学びました。札幌市男女共同参画センターは2003年に設立され、男女共同参画に関する講座、図書資料をはじめとした情報資源および団体活動の発表場所を提供する情報センターの運営に加え、相談事業もおこなっています。館内の視察を終えた研修生からは、女性のためのコワーキングスペースなどの充実した施設や、子育て中の女性の就労を支援するカウンセラーが常駐している点に感銘を受けた、との意見が出されました。

#### ②企業の取組みを学ぶ

午後には環境やジェンダーに配慮した取組みについて学ぶため、丸吉日新堂印刷株式会社を訪問しました。同社はザンビア産のバナナの茎を原材料とした再生紙を使った名刺を、国内で販売しています。バナナペーパーは、持続可能なビジネスを目指し太陽光発電で稼働している環境に配慮した工場で生産されています。工場では主としてザンビア人女性が働いているため、女性の雇用機会の創出にもつながっています。研修生からは「女性たちがバナナペーパーの生産に従事して得た賃金が、世帯内でどのように支出されているのか」や、丸吉日新堂印刷株式会社の取組みと従来のフェアトレードとの違いなど多数の質問が出されました。

#### ③持続可能な農業の事例

研修最終日は、江別市のアンビシャスファーム株式会社を訪問しました。同社は北海道では珍しい少量多品種（年間70品目100品種）の野菜を生産しています。食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられるJGAP\*認証を取得したアンビシャスファームは、家族経営主体の従来の日本の農業とは異なり、農作業にかかる様々な作業工程を明文化することにより、安全でやりがいのある職場作りを目指しています。質疑応答では生産物の販路の確保や、ファームで働くスタッフのワークライフバランスなどについて、活発な意見交換がなされました。

(\*GAPとはGood Agricultural Practiceの略称で、農業生産工程管理を指します。)

5日間の研修を終えた研修生は、10月6日に帰国の途に就きました。

# 国別報告

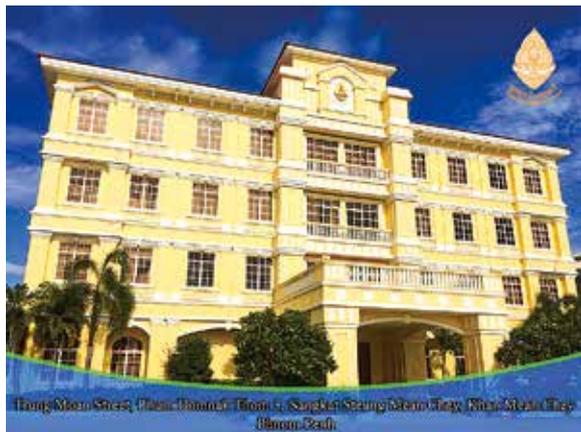
**国別概要 カンボジア王国**

人間開発指数	2018	146位/189
ジェンダー不平等指数	2018	114位/189
グローバル・ジェンダー・ギャップ指数	2019	89位/153

**1. 男女共同参画政策**

カンボジア王国政府は、すべてのレベルにおいて国内法令、政策、計画、プログラムを施行することで、建設的な社会規範の推進に取り組んでいます。関係省庁、機関、パートナー組織との連携や支援を得ながら、女性省（MOWA）は以下のとおり、主要な戦略政策および改革プログラムにおけるジェンダー平等の発展に寄与してきました。

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに向けたMOWAの5カ年戦略計画2014年-2018年である第4次ニアリー・ラッタナー（2019年-2023年第5次ニアリー・ラッタナーは現在策定中）は、プログラムに基づくアプローチとグッドガバナンスを促進するため、組織能力の強化を目指しています。同計画には、ジェンダー平等促進に向けた政策提言や助言、各機関との調整に関するMOWAの役割を強化するための包括的戦略も含まれています。



カンボジア王国女性省

ジェンダー平等に向け、より長期的な政策枠組みを提供するための第1次国家ジェンダー政策の形成には、女子差別撤廃条約（CEDAW）に基づくジェンダー差別の定義も含まれていません。

各分野や機関にわたってジェンダー主流化を加速させる重要戦略としてのジェンダー主流化活動グループ（GMAG）およびジェンダー主流化活動計画（GMAP）があります。

女性に対する暴力を防止する国家行動計画は、多分野にわたって、ジェンダーに基づく暴力への対応と効果的予防に向けた重要項目および行動を定めています。

ジェンダー視点は人口政策、国家戦略開発計画、国家社会保障枠組み等の重要戦略および政策に盛り込まれています。

ジェンダーの視点は、地方レベルで女性を管理職に登用する国家戦略（2017年-2019年）を通して、行政改革、公的財政管理改革、法的・司法改革、地方分権化および分散化等の重要改革プロセスにも、盛り込まれています。

ジェンダー、気候変動、グリーン成長、災害リスク管理に関する戦略計画は、執行予算と併せてカンボジア気候変動戦略計画2013年-2022年にも盛り込まれています。



ジェンダー平等5カ年計画策定ワークショップ

**2. SDGsにジェンダー視点を組み込む課題**

● 出産年齢の女性は妊娠と出産に関連する重大なリスクを抱えています。妊産婦死亡率は生児出生10万につき206人と高止まりしています。農村地域や貧困世帯の女性は、より大きなリスクにさらされています。2012年、医師が付き添った出産は、プノンペンの30%に対し、農村地域では13%にとどまっています。カンボジアは、母体の栄養不良の面で、



ミレニアム開発目標（MDGs）を達成していません。栄養不良は妊産婦死亡件数の20%を占める根本原因とみなされており、カンボジアで年間300件近い妊産婦死亡数に相当します。貧血を患う妊娠女性の割合は53%です。女性の6%は身長が145センチ未満で、幼少期に栄養不良であったことを示しています。これらの女性は発育不良の子を出産する傾向にあります。

- 教育分野における女子学生のピラミッド構造としての、正規の技術教育・訓練ならびに職業教育・訓練（TVET）システムでは、TVETアクセスにおいてもジェンダー格差が見られ、クオリティ、制度面での能力においてもまだ初期段階にあります。中等教育に進んだ女子学生のうち、9年生修了が必須条件となる正規TVETへ進学するのは1%未満です。高等教育レベルの女性が抱える重要課題には、専攻分野におけるジェンダーの不均衡、女性の職業教育と労働市場需要の間にある不均衡の固定化、経済的障壁、住居不足、限られたパートタイムプログラムなどが含まれています。これら基礎教育およびTVETにおけるジェンダー格差が、女子の労働市場への参画や女子が労働市場から得られる利益、ひいては経済的エンパワーメントの妨げとなっています。

### 3. ベスト・プラクティス

女性に対する暴力防止に関する国家行動計画2014年—2018年（NAPVAW II）および、子どもに対する暴力の防止および対応のための5か年行動計画2017年-2021年に基づき、女性省は2017年12月、研修用のツールキットと併せて「前向きな子育て戦略」を策定、開始させました。同戦略は、子どもや家族に携わる専門家が、親や保護者向けに調整がとれ、クオリティの高い支援を提供できるようにするための指針として機能しています。親や保護者を支援することの重要性を認識することで、暴力や不必要

な家族離散を減らします。女性省主導による、親の前向きな変化プロジェクト（3年）は、研修、意識啓発、チラシ配布などの形態で、6州で実施されています。

同プログラムに参加した家族は、暴力を減らすために考え方を換え、子どもを学校へ行かせ、子どもに暖かいケアを与えるようになり、子どもとより多くの時間を過ごすようになっていきます。子どもに暴力ではなく、より多くの助言を与えています。



前向きな子育て戦略に関するセッションに参加する家族

### 4. 参考ウェブサイト

- カンボジア女性省  
<http://www.mowa.gov.kh/en>
- UNDP  
[www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english)
- [http://www3.weforum.org/docs/WEF\\_GGGR\\_2018.pdf](http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2018.pdf)



## 国別概要 インドネシア共和国

人間開発指数	2018	111位/189
ジェンダー不平等指数	2018	103位/189
グローバル・ジェンダー・ギャップ指数	2019	85位/153

### 1. 男女共同参画政策

国内におけるジェンダー主流化は、大統領令2000年第9号および内務省規約2011年第67号において規定されています。ジェンダー主流化は、2015年－2019年国家中期開発計画に盛り込まれ、大統領規約2015年第2号で規定されました。インドネシア政府は、大統領規約2017年第59号でも示されているとおり、持続可能な開発目標（SDGs）を実現し、達成するために取り組んでいます。インドネシアのSDGs指標は、ジェンダー統計収集計画と併せて、17の目標、169のターゲット、319の指標に展開されています。

### 2. SDGsにジェンダー視点を組み込む課題

ゴール3の達成に向けて、保健分野におけるジェンダー課題は、引き続き重点事項となっています。妊産婦死亡率のSDGs目標値は102であるのに対し、インドネシアの妊産婦死亡率は2015年に305でした（2015年世帯人口調査）。病院で死亡した妊産婦（77%）の死亡原因は、医療処置の遅れ、家族の決断の遅れ、アクセスの欠如などによるものです（2016年SRS）。10人中4人（37.2%）の妊婦が貧血を患い、24.2%の妊婦が慢性的な栄養失調状態に陥っています。2歳未満の乳幼児3人に1人が発育障害を抱えています（2018年国民健康基本調査）。

国内就学率の男女比率では、全年齢層において平等であることを示していますが、インドネシアの一部地域では格差が存在しています。伝統的習慣や学校のカリキュラムに内在するジェンダーに起因する偏見が女子のやる気や夢を阻んでいる可能性があります。障がい児の受け入れは促されているものの、実現には至っていません。高等教育への女性のアクセスは男性より高いものの、キャリアを追求する際のジェン

ダー障壁もあり、フォーマル・セクターにおける女性労働力の受け入れ状態と合致するものではありません。より柔軟な仕事の需要は、低レベルのケアと保障しか付与されないインフォーマル・セクターで女性が大半を占める原因となります。インドネシアの女性は、教育、専門性、キャリア、それぞれにおけるジェンダーによる偏見が原因で、依然として科学・技術・工学・数学の分野（STEM）で後れを取っています。SDGsのゴール4およびゴール5へ向け、STEM分野の研究・革新、研修、奨学金、仕事の機会等において女性の参画を増やすことが課題となっています。

### 3. ベスト・プラクティス

#### ●女性のエンパワーメント・児童保護省

ジェンダー主流化は、ジェンダーに配慮した計画・予算（PPRG）を通して加速しています。すべてのレベルの省庁・機関およびセクターは、男性と女性の経験、願望、必要性や問題を政策やプログラムの計画、実施、監視、評価プロセスに取り入れる義務があります。

ゴール3（すべての人に健康と福祉を）およびゴール5（ジェンダー平等を実現しよう）に貢献するための取組みとして、妊産婦死亡率、発育障害、HIVおよび結核の問題に対応しています。女性のエンパワーメント・児童保護省は対象となる分野において研修、調整、実践を行っています。技術指導を通して、異なるセクターの関係者が協力し、健康問題におけるジェンダー格差を特定しています。リアウ諸島州、ブンクル州、ジャカルタ首都特別州において妊産婦死亡率に関する問題に対応するために果たす男性の役割も重要です。女性の生涯を通じて男性は、配偶者、父親、家族の一員、隣人、公人など多様な役割を果たしています。ジェンダー分析は、ジェンダーバイヤスを明らかにし、発育障害やHIV、結核等の問題をマッピングするための最善のアプローチです。



連携が強化された状況でそれぞれの関係者が達成すべき指標は、関係者ごとに設定されています。これはかつて、セクターごとに個別で行われてきました。それぞれの研修で、多くの政府職員をジェンダー平等に敏感にさせること、健康分野以外のセクターと作業グループを政府機関に含めること、より多くのジェンダー専門家を巻き込むこと、より多くの協調を図ることの必要性について、対応の強化につながるフォローアップと教訓がありました。

#### ●インドネシア大学 ジェンダー学プログラム

インドネシア大学のジェンダー学プログラムは、ジェンダーへの配慮や社会的包摂、さまざまな問題や識別・マッピングの可能性について、村内のコミュニティや村民を積極的に支援しています。天然資源管理、経済的エンパワーメント、特に森林再生、泥炭管理、持続可能な農業および製織技術の保存等の分野にジェンダーや社会的包摂を取り入れる村のファシリテーターの能力を向上させるための研修や議論が、南カリマンタン州、西ヌサ・トゥンガラ州、東スンバ県、マルク州、ランブン州で実施されています。こうした取組みは、下記SDGs目標に貢献しています。ゴール1（貧困をなくそう）、ゴール2（飢餓をゼロに）、ゴール3（すべての人に健康と福祉を）、ゴール4（質の高い教育をみんなに）、ゴール5（ジェンダー平等を実現しよう）、ゴール10（人や国の不平等をなくそう）、ゴール13（気候変動に具体的な対策を）、ゴール15（陸の豊かさを守ろう）、ゴール16（平和と公正をすべての人に）。

ニーズ、利点、問題の特定に成功する秘訣として、以下のアプローチや方法論が挙げられます。

さまざまな参加型振り返り技法とデータ収集：男女の役割分担、ロールプレイ、スパイダーウェブ方法論、ジェンダーに配慮した村の略図作成、村の計画調査、ジェンダー視点

を取り入れたコミュニティづくり、文化・知識の活性化、歴史調査、問題解決のマッピング。

女兒、成人女性、老人、貧困女性・男性、世帯主の女性、女性労働者、障がい者など多様なグループが経験した不当行為や不平等など差別の特定。

健康、教育、経済、天然資源や環境（土地、森林、水、ごみ）、文化、村の開発計画、土地と社会的葛藤等における包括的なジェンダーおよび社会包摂問題。



ランブン州で開催されたコミュニティ向けジェンダー研修および森林保有再構築においての、ジェンダーに優しい村に関するマッピング・セッション。（2017年、インドネシア大学ジェンダー学の主導による。）

#### 4. 参考ウェブサイト

##### ●国際連合インドネシア

<http://www.un.or.id/what-we-do/sustainable-development-goals-sdgs>

##### ●女性のエンパワーメント・児童保護省

<https://www.kempppa.go.id>



## 国別概要 日本

人間開発指数	2018	19位/189
ジェンダー不平等指数	2018	23位/189
グローバル・ジェンダー・ギャップ指数	2019	121位/153

### 1. 男女共同参画政策

2015年にSDGsが国連で採択された後、日本政府は2016年5月に内閣総理大臣を本部長とし、全閣僚を構成員とする「SDGs推進本部」を設置しています。同年12月、日本政府の取組み指針である「SDGs実施指針」が決定されています。目標5の「ジェンダー平等の推進と女性と女性のエンパワーメント」に関連して、「女性の活躍推進のための開発戦略」では以下の3つの重点領域を定めています。

- 1) 女性と女性の権利の尊重：女性及び女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃と暴力の根絶に向けた支援の提供、女性にやさしいインフラ整備とコミュニティづくり、紛争下における女性に対する暴力の撤廃、ジェンダー視点に基づく緊急支援の実施、女性の生涯にわたる健康の確保
- 2) 女性の潜在力を引き出す：女子教育の推進・強化、男女比に配慮した教員の育成や男女共同参画教育の推進に加え、女子トイレや学校の設備整備、学校併設の女子寮設置など、包括的な学習・通学環境の改善措置の実施、職業訓練支援、科学・技術分野で活躍する女性の拡大、無償ケア労働の省力化、水・衛生環境の改善、男女共同参画の視点に立った農林水産業の育成、紛争予防、紛争解決、平和構築、防災分野における女性の人材育成。
- 3) 政治、経済、公共分野における女性のリーダーシップ向上：女性の経済的エンパワーメントの推進、女性の政治・公共分野でのリーダーシップ強化・推進、ガバナンス強化、紛争予防、紛争解決、平和構築、防災における意思決定過程への女性の参画推進等。

### 2. SDGsにジェンダー視点を組み込む課題

SDGsや目標5について日本社会での関心が低いことが大きな課題です。株式会社電通が全国10～70代の男女計 6,576名を対象に、2019

年に実施した第2回「SDGsに関する生活者調査」からは、SDGsの認知度は全体で16.0%にとどまっており、男性より女性の認知度が低いことが確認されています。また、17の目標の考えに関することを何らか実践している人は全体の60.4%にのぼったものの、目標別の実践度は、目標5が最も低くなっており、環境保護やパートナーシップの推進に比較して、ジェンダー平等の推進がSDGsの達成のために不可欠な要素であることが十分に社会の中で共有されていないことが明らかになっています。SDGsに係る議論の中で、分野横断的な課題としてのジェンダー平等の達成をどう取り上げてゆくかが重要となっています。

### 3. ベスト・プラクティス

#### ●国際協力NGOジョイセフの取組み

公益財団法人ジョイセフは、女性のいのちと健康を守るために活動している1968年に設立された国際協力NGOです。戦後の日本が実践してきた家族計画・母子保健の分野での経験やノウハウを活かして、国連、国際機関、現地政府及びNGOや地域住民と連携し、アジアやアフリカで、保健分野の人材養成、物資支援、プロジェクトを通して生活向上等の支援を行っています。

ミャンマーでは女性が妊娠出産で死亡する割合が農村部で都市部の2.5倍に達しており、農村地域の医療機関へのアクセスの悪さや保健サービスの強化が課題となっています。ジョイセフは2000年代から、国際機関、ODA、日本企業との連携のもと、助産師などの保健人材や保健ボランティアの研修、保健所の建設・改修を行ってきています。また、思春期の心身の変化や月経期の処置に関する知識不足のため、女子生徒が学校生活を送る上で支障をきたしている現状を改善するため、JICA、ユニ・チャーム株式会社、現地保健スポーツ省と協力して月経教育を広めるプロジェクトをおこない、99,920名の女子生徒と保護者を対象に、第二性徴や月経時の処置方法に関する授業をおこないました。その結果、月経への恐れを感じると答えた女子



生徒は51%から26.2%に減少しています。

こうした活動を含め、これまでの取組みが評価されて、ジョイセフは持続可能な社会の実現に向けて優れた取組みを実施している団体に贈られる第一回「ジャパンSDGsアワード」に選ばれた12団体のひとつとして、特別賞「SDGsパートナー賞」を受賞しています。



写真提供：公益財団法人ジョイセフ

#### ●アンビシャスファーム株式会社の取組み

アンビシャスファーム株式会社は、北海道江別市にある、コメと野菜の生産・販売を行う2014年に設立された農業法人で、26名の従業員のうち女性が15名です（令和元年10月現在）。水田11.5haと畑20.5haでコメ、大豆、野菜などを生産し、契約を結ぶ生協に卸すほか、飲食店への直接販売、WEBや定期的な直売など販路を広げています。同社は「新しい農業を創造し、次世代が魅力的な農業を実践する」をミッションとして掲げSDGsの目標8「働きがいも経済成長も」や目標5「ジェンダー平等を実現しよう」の達成をめざしています。

代表の柏村章夫さんは「新規就農者の人も長く働き続けることができるためには、一つ一つの作業がルール化されていることが重要」と考え、2017年に食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられるJGAP（Japan Good Agricultural Practice）という認証を取得しました。またアンビシャスファームは少量多品種の野菜を生産している強みを生かして、地元企業（パン屋、菓子店）との協働

も積極的におこなっています。4月から10月まで週1回開催している「ふたりのマルシェ」を通じて、同社の農産物を知ってもらうと同時に、地元企業の価値向上にも貢献するというウィン-ウィンの関係を築いてきました。

アンビシャスファームでは、働きやすい職場環境の整備にも努めています。たとえば従業員は働く時間や日数は自分で定めることができます。子育て中の従業員は、子供が病気で保育園から呼び出しの電話がかかってきた場合は、「30分以内に迎えにいける」というルールがあります。作業場で重量のある野菜を運びやすいようカートを導入したり、運搬用の2tトラックを導入する際に普通免許対応・オートマチック規格を採用したりするなど、誰もが働きやすい環境整備に努めています。こうしたソフト面での取組みが評価されて、「2017年度 農業の未来をつくる女性活躍経営体100選」にも選ばれています。



写真提供：アンビシャスファーム株式会社

#### 4. 参考ウェブサイト

- 内閣府男女共同参画局  
<http://www.gender.go.jp/>
- Japan SDGs Action Platform（外務省）  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>
- 公益財団法人ジョイセフ  
<https://www.joicfp.or.jp/jpn/>
- アンビシャスファーム株式会社  
<http://ambitious-farm.co.jp/>



## 国別概要 大韓民国

人間開発指数	2018	22位/189
ジェンダー不平等指数	2018	10位/189
グローバル・ジェンダー・ギャップ指数	2019	108位/153

### 1. 男女共同参画政策

6つの主なプロジェクト

- 1) ジェンダー平等の意識と文化の奨励
- 2) 労働や機会への平等な権利の確保
- 3) 女性の代表性と参画の強化
- 4) ワークライフバランスに向けた社会インフラの構築
- 5) 女性に対する暴力の撲滅、女性の健康増進
- 6) ジェンダー平等政策実施体制の強化

展望と目標



出所：[http://www.mogef.go.kr/eng/pc/eng\\_pc\\_f001.do](http://www.mogef.go.kr/eng/pc/eng_pc_f001.do)

### 2. SDGsにジェンダー視点を組み込む課題

ジェンダーは分野横断的な問題

- 韓国の持続可能開発目標（K-SDGs）は、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに関する問題を軽視してきました。
- ゴール5においても！  
例）ゴール5：ジェンダー平等を実現しよう  
ゴール5.1およびゴール5.3
- K-SDGsはジェンダーに関する再分類データを提示していません。  
例）ゴール10：人や国の不平等をなくそう  
ゴール10-2およびゴール10-3

### 3. ベスト・プラクティス

#### 韓国女性団体連合（KWAU）

- K-SDGsにはいくつかの制限があります。
- NGOは監視や政策提言を継続しています。
- KWAUはSDGsについて学ぶ作業部会を組成し、K-SDGsにおける政府のプロセスを監視しています。
- K-SDGsの実施における政府システムに影響を与えるため、異なる分野の市民社会組織が協働しています。

#### 韓国両性平等教育振興院（KIGEPE）

- アジアにおけるジェンダー指導者ネットワークプログラム（AGenT）

##### ●背景

本年、韓国両性平等教育振興院は、8月と10月の2回、「2019年アジアにおけるジェンダー指導者ネットワークプログラム（AGenT）」を主催しました。プログラムは、オリエンテーション、講義、セミナー、ワークショップ、視察、行動計画で構成され、プログラムに組み込まれたすべてのセッションとアクティビティを修了した参加者には、修了時に修了証書が授与されます。

##### ●目標と目的

本プログラムは、アジア14か国の政府や市民社会で現在活動しているジェンダー指導者の専門能力を大幅に高めることを目指すものです。プログラム修了時、参加者には次のものが身につきます。

- ・ジェンダー平等のより明確なビジョン
- ・ジェンダー研修に関する最新で文脈化された知識とスキル
- ・課題に向けたベストプラクティスと解決策
- ・アジアにおけるジェンダー専門家ネットワークの拡大

##### ●実績

（ジェンダー平等の指導、教育、カウンセリングを担当する）アジアのジェンダー指導者100名以上から2019年AGenT（第1期および第2期）への申し込みがあり、アジア14か国から選ばれた42名の参加者が、プログラムを修



了しました。参加者は、プログラムを通して、知識、戦略、ツールと方法、ネットワーク、変革の視点など5分野においてエンパワーされました。ワークショップでは、ジェンダー平等とジェンダー擁護に関する最新の知識と戦略、異なる対象にジェンダー教育を施すツールと方法が提示されました。視察と行動計画のセッションでは、変革に向けより明確な視点が描けるよう支援されました。またプログラム全体を通して、プログラム終了後も経験や知見の交換ができるアジアジェンダー専門家間のネットワーク構築が促されました。オンラインでのプログラム評価では、ほとんどの参加者が新しい知識や参加型促進スキル、積極的かつ安全に相互学習ができる雰囲気に感銘を受けたことを表しています。各期末には、参加者がAGenTから学んだことをいかにそれぞれの分野に適用するかの行動計画を発表しました。計画の実施結果はFacebookのグループページで共有されています。



第2期AGenTグループ写真(全州市において)

### 「ジェンダー ON」(KIGEPE)

「ジェンダー ON」は、年齢に適した環境に沿った文脈化された内容のジェンダー平等教育を提供する韓国唯一のジェンダー平等教育サービスプラットフォームです。

#### 「ジェンダー ON」の特徴

学校の教員やジェンダーの専門指導者を含む教育者は、スマートフォンやPCを利用し、いつでも、どこからでもジェンダー平等センターにアクセスできます。

「乳幼児」、「児童」、「10代の若者」、「成人」など異なる年齢層向けにコンテンツを提供しています。「ジェンダー ON」はまた、軍人、警察官、公務員など異なる職業向けに文脈化された教材を提供しています。

コンテンツは、動画、カードニュース、ウェブトゥーン、無料でダウンロードできる講義など、さまざまな形式で提供されています。

現在のところ資料は韓国語のみですが、KIGEPEは、将来的に教材を他言語でも準備する予定です。



## 4. 参考ウェブサイト

- 女性家族部 (MOGEF)  
<http://www.mogef.go.kr/eng/index.do>
- 韓国女性団体連合 (KWAU)  
<http://www.women21.or.kr/kwau>
- 韓国両性平等教育振興院 (KIGEPE)  
国際協力センター (ICC)  
<https://www.facebook.com/ICC.KIGEPE>
- 第1期AGenTの思い出  
[https://youtu.be/f3\\_NAyOSucA](https://youtu.be/f3_NAyOSucA)
- 第2期AGenTの思い出  
<https://youtu.be/1UpYznLE0yc>
- 「ジェンダー ON」(韓国語のみ)  
<http://genderon.kigepe.or.kr/>



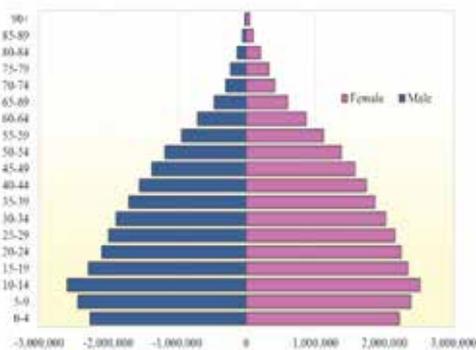
## 国別概要 ミャンマー連邦共和国

人間開発指数	2018	145位/189
ジェンダー不平等指数	2018	106位/189
グローバル・ジェンダー・ギャップ指数	2019	114位/153

### 1. 男女共同参画政策

ミャンマー国家女性委員会（MNCW）は、特にジェンダー平等および、教育、健康、経済、政治各分野における女性のエンパワーメントを促進し、女性に対するあらゆる暴力を根絶するために、ミャンマー人女性および女兒向けの「女性の地位向上のための国家戦略計画 2013～2022」を策定しました。同計画は、北京行動要綱の12重大問題領域の実現を可能にするシステム、体制の整備と実践を求めるものです。MNCWの指導の下、国家レベルのテクニカルワーキンググループ下記4グループを組成し、前述の12重大問題領域の実施に向け取り組んでいます。

1. ジェンダー主流化
2. 女性参画（政治・経済分野）
3. 女性、平和、安全保障
4. 女性に対する暴力



年別・性別別ミャンマー人口 (2014年国勢調査)

### 2. SDGsにジェンダー視点を組み込む課題

ジェンダー平等（持続可能な開発目標5）を達成し、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを確実なものとするため、ミャンマー連邦共和国は、国際機関、ASEAN、国内NGO、国際NGOと協力・調整を図りながら、優先的に

女性問題に取り組んでいます。しかしながら、解決されるべき問題や課題は残されています。主な課題は次の2点です。

- ・政府機関において能力開発とメカニズムを増強する必要性
- ・プログラムを実施する政府基幹局内の資金、内部処理能力、メカニズム、資源が限定されていること

しかしながら、社会福祉・救済・復興省（MSWRR）は多くのプログラムを実施しており、ある一定の成果が達成されているものもあります。

### 3. ベスト・プラクティス

#### ●社会福祉・救済・復興省の取り組み

ジェンダー問題に中心となって取り組むMSWRRは、以下を実施しました。

- － ワン・ストップ女性支援センターと24時間電話相談サービスの開設
- － 2017年から現在まで、国内避難民キャンプにおいて、女性や女兒向けの職業訓練および精神・社会的支援を実施
- － MCCT（母子送金プログラム）プログラムの開始
- － 統合型事案管理システム

サバイバーに身体的、精神・社会的サポート、ヘルスケア・サービス、法的支援、カウンセリングを提供することを目的に、関係省庁や連携機関の協力を得て、2016年より4州・地域に4つのワン・ストップ女性支援センターが開設されています。

MSWRRは2016年11月29日、ミャンマー人女性、女兒、障がい者に対する暴力、虐待、搾取等のケース、子どもへの強姦、社会保護送金プログラムなどに関する国民からの相談を解決するため、24時間電話相談サービスを開始しました。寄せられた問題を解決するため、ケースマネジャー、手話サポーター、社会福祉局（DSW）の民族担当官らが、関係省庁やパートナー組織と協力し、一時保護施設、基本的ニーズ、法的支援、ヘルスケア・サービス、経済支



援、生活扶助等を提供しています。

また、さらなる雇用創出、女性のエンパワーメントを目的とし、機関ベース、地方自治体ベースの職業訓練を提供するため、社会福祉・救済・復興省によって家庭科学学校11校が設置されました。当該職業訓練は国内避難民キャンプ等を含め国中で実施されています。

低栄養状態に応じて政府により実施されている社会保護プログラムのひとつに、妊婦と2歳未満の新生児向けに提供される母子送金プログラム（MCCT）があります。MCCTは2017年、チン州、ナガ自治区、ラカイン州で開始され、2018年にはカイン州、カヤー州まで拡大し、現在ではシャン州、エーヤワディー地域にまで拡大すべくDSWが査定を進めています。今では、毎月15,000ミャンマーチャット（約1,100円）が四半期ごとに各受益者へ支給され、担当省庁と連携して栄養啓発訓練が実施されています。政府は同プログラムを国中に展開する予定です。

さらに、MSWRRは27の町村で統合型事案管理システムを導入し、2015年には事案管理システム用標準操作手順を開発しました。当初、DSWは同システムを児童福祉サービスに組み入れましたが、2018年には女性問題向けにアップグレードしました。現在では、すべての州や地域に200人近いケースマネージャーが配置され、ジェンダーに基づく暴力向けに標準操作手順を修正しています。

#### ●ミャンマー女性起業家協会の取り組み

ミャンマー女性起業家協会は、以下の社会貢献活動を行っています。

- 農村地域出身の若い女子学生向け養母教育プログラムへの毎年の寄付
- 村落郡出身の女性を対象とした草の根レベルの財務管理プロジェクト
- リーダーシップ研修の実施など地域開発活動。ヤンゴン女性起業家開発センター（WEDC）で実施されている女性の経済的エンパワーメントプロジェクトにおいて、女

性起業家や女性新規事業オーナーへメンタリングとコーチングの提供



MWEAによる女性起業家向けメンタリング研修

#### 4. 参考ウェブサイト

- 国連人口基金（UNFPA）ミャンマー事務所  
<https://myanmar.unfpa.org>
- 人間開発報告2019  
[http://hdr.undp.org/sites/all/themes/hdr\\_theme/country-notes/MMR.pdf](http://hdr.undp.org/sites/all/themes/hdr_theme/country-notes/MMR.pdf)
- ミャンマー国家ポータル  
<https://myanmar.gov.mm/en/ministry-of-social-welfare-relief-resettlemen>  
<https://www.dsw.gov.mm/>
- ミャンマー女性起業家協会（MWEA）  
<https://web.facebook.com/profile.php?id=100013186298471>

**国別概要 ベトナム社会主義共和国**

人間開発指数	2018	118位/189
ジェンダー不平等指数	2018	68位/189
グローバル・ジェンダー・ギャップ指数	2019	87位/153

**1. 男女共同参画政策**

持続可能な開発目標（SDGs）を含め、国際条約の履行を確実にものにするため、ベトナムはジェンダー平等政策を同国の法律および政策に規定しています。ベトナムはまたSDGsの目標を達成し、社会保障を確実にものとするため、以下のとおり最善を尽くしています。

- ▶ 貧困率は49.2%（1992年）から14.8%（2008年）へ減少し、2014年には2.8%と低い値を維持しています。
- ▶ ベトナムは、1990年度から2015年の期間に妊産婦死亡率の減少に関するミレニアム開発目標（MDGs）の第5目標を達成しました。
- ▶ 2016年-2021年期の議会に占める女性比率が26.7%に達しました。全30省庁のうち12省庁で女性がリーダーを務めています。
- ▶ 事業主である女性が増加し、現在では31.6%となっています。
- ▶ 育児休業制度として女性には6ヵ月、当該女性の夫には最低5日間の休暇が付与されています。

退職年齢の男女間の格差是正に取り組んでいます。

**2. SDGsにジェンダー視点を組み込む課題**

経済分野：同一職位における男性と女性の所得格差はいまだに存在し、女性が高収入の職にアクセスできる機会は、依然として男性より低くなっています。高収入な仕事は、企業が人員削減を必要とする際などに、より不安定になります。特に現在は、女性労働者の平均収入は常に男性のそれを下回っています。

国家競争力は、特に経済制度、インフラ、技術革新の分野において大きく向上しています。

現在、農業、林業および漁業が国内総生産（GDP）の14%近くを占めていますが、人口の70%は農村地域に住んでいます。

インフォーマル・セクター単体（露天商人、自発的零細企業）が多くの従業員を雇用しており、約5,000万ある雇用のうち1,100万を占めています。

政治・社会分野：ジェンダーに基づく差別、女性より男性を優先すること、女性リーダーの人数が男性リーダーの人数より少ないこと、女性は民間セクター、中小企業に集中していることなどが課題となっています。ベトナムにおける女性の労働力率は72.9%と、男性の83.0%より低く、賃金にもジェンダー格差が見られます。女性は依然として家事のほとんどについて対価が支払われていません。農村地域、山岳地帯、遠隔地とりわけ少数民族の人々の間では、早婚の傾向があり、新生児の男女比は男児のほうが高く、2018年では100人の女児に対し113.6人が男児でした。

多面的な貧困：少数民族と地方から都会への移住者、貧困に陥りやすい2つのグループです。少数民族に対する不平等は根強い問題で、改善はしているものの依然として大きな格差が存在しています。国内の所得貧困率は7%であるのに対し、少数民族の所得貧困率は23%です。原因として、地理的要因、構造的拘束、エンパワーメント、機会、公共サービスへのアクセスに対する社会的偏見などが挙げられます。

移住者は通常、所得面で貧しくはありませんが、多角的な貧困が存在し、移住者と地元住民の間には大きな格差が見られます。

気候変動分野：ベトナムは、世界でもっとも気候変動の影響を受けている国のひとつです。気候変動は、毎日、人々、特に女性に影響を及ぼしています。

ベトナムは、2018年、もっとも高いレベルで自然災害にさらされる12ヵ国のうちのひとつに位置づけられています。人の世話をするという女性の役割のために、自然災害時、女性は、最初に子どもや老人を安全な場所へ移動さ



せ、最後に家を出るなど、より自分を犠牲にしやすい傾向にあります。最近まで、災害リスクの削減、準備や対応における女性の役割はほとんど認識されていませんでした。

### 3. ベスト・プラクティス

1. 災害リスク管理のさまざまな段階（防止、準備、対応、復興）において女性が果たす重要な役割を認識してもらうなど、SDGsに対するベトナム社会全体の意識向上を図り、行動を促しています。2013年には、ベトナム女性連合（VMU）が国家災害対策委員会および省・県・コミュニティなど全レベルにおける地方災害対策・捜索救助委員会の正式な委員となりました。



雨期・洪水シーズンに備えた女性向け応急処置研修

2. 農場を増やし、より多くの世帯が経済に関わるよう促す、籐や竹製の手工芸品、キノコや花栽培など市場で需要のある製品等を利用して昔ながらの村を維持・発展させるなど、持続可能な貧困削減政策を実施しています。



3. 人材の知的水準およびクオリティを向上させるため、すべてのレベルにおいて教育の質の向上を目指しています。また、気候変動やプラスチックごみを抑えることに関する啓発活動も強化しています。



「プラスチック袋の使用を最小限にする女性」クラブ（カントー市）

国内および海外の財源、特にSDGsを実行するための民間セクターからの財源の流動性を強化しています。

### 4. 参考ウェブサイト

- ベトナムにおけるSDGs指標  
<http://www.mdpi.com/2227-7099/6/1/1>
- Open Development Vietnam  
<https://vietnam.opendevlopmentmekong.net/topics/sustainable-development-goals/>
- グローバルジェンダーギャップレポート2018  
[http://www3.weforum.org/docs/WEF\\_GGGR\\_2018.pdf](http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2018.pdf)



## Overview of the Leader Seminar

From October 1st through October 5th, The National Women's Education Center (NVEC) held the FY2019 Seminar for Gender Equality Officers and Women Leaders in the Asian Region under the theme of "Achieving Sustainable Development Goals (SDGs) through Gender Perspectives." Ten government officials and non-governmental organization (NGO) leaders involved in the field of gender equality participated in the seminar representing five Asian countries (Cambodia, Indonesia, South Korea, Myanmar, and Vietnam). This seminar is held every year with emphasis on emerging issues related to gender equality. This year's seminar focused on learning about best practices on gender-sensitive SDGs undertaken by the Japanese government, private companies and NGOs.

### ● Seminar at the National Women's Education Center

While staying at the National Women's Education Center (NVEC), the participants attended a lecture on the mission of NVEC and its role as an institution promoting gender equality. They also visited the Information Center for Women's Education and the Women's Archives Center's exhibition titled "Beate Sirota Gordon Exhibition." Furthermore, a report was presented on the "Survey of Men and Women's Initial Career Development and Promotion of Their Participation," which has been carried out by researchers at the Office of Research and International Affairs since FY2015, and findings from the three-year panel survey were shared. Information was also provided on the "Seminar for Leaders Promoting Gender Equality," which has held in May, by Program Division staff. The seminar participants raised questions on criteria for the selection of companies that cooperated with the survey, and the participant attributes and theme setting in the training for leaders. On the second day of the seminar, country reports were presented. During the country report session, information was shared on the latest gender equality policies and issues involving SDGs and the empowerment of women and girls in the five Asian countries.

### ● Learning about Initiatives by NGOs

In order to learn about initiatives on SDGs promotion by the civil society, the lecturer was invited from the Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP), and the seminar participants listened to the lecture by Ms. Kei Yoshidome. JOICFP is a Japan-based NGO active in the field of sexual and reproductive health and rights (SRHR), gender equality and women's empowerment where it works to improve the health status of women, men, and young people around the world. In the lecture, JOICFP's activities in Zambia and Myanmar as well as "I LADY", a project to raise awareness on SRHR in Japan were introduced. In the latter part of the lecture, discussion on issues and strategies to reduce maternal mortality was conducted based on the available data of the five participating countries.

### ● Lecture on Initiatives Related to the Promotion of SDGs and Gender Equality by the Government of Japan

On the third day of the seminar, the seminar participants visited the Ministry of Foreign Affairs to receive the lecture on initiatives related to the promotion of SDGs and gender equality by the Government of Japan. After the SDGs were adopted at the United Nations in 2015, the Government of Japan established "SDGs Promotion Headquarters," which is headed by the Prime Minister and consists of all ministers, in May 2016 to organize a system to take the initiative in implementing the SDGs both domestically and internationally. Furthermore, under this headquarters, after the discussion at the "SDGs Promotion Roundtable Meeting," which consists of a wide range of stakeholders, including the government, private sectors, and

international organizations, “SDGs Implementation Guiding Principles” was decided in December 2016. In the gender field, the “Development Strategy for Gender Equality and Women’s Empowerment” was formulated in 2016 as a sectoral development policy based on the Development Cooperation Charter (Cabinet decision in February 2015). Japan provides support in the following priority fields: (1) promoting respect for the rights of women and girls and improving their vulnerable situations; (2) improving an enabling environment for women to reach their full potential; and (3) advancing women’s leadership in politics, economics, and other public fields. In a question and answer session, opinions, e.g., the government’s system for promoting SDGs and cooperation with other ministries and agencies, were actively exchanged.

● Study Tour in Hokkaido Prefecture

For the latter half of the seminar, the participants travelled to Sapporo City and joined study tours.

(1) Sapporo Center for Gender Equality

The participants visited Sapporo Center for Gender Equality to learn about initiatives at women’s center in Japan. Sapporo Center for Gender Equality was established in 2003, and provides courses on gender equality, operates the information center to provide information resources, including book materials, and places for presentation of group activities, as well as provides consultation services. After touring the center, seminar participants commented that she was impressed by extensive facilities such as a co-working space for women and a full-time counselor who provides employment support for women raising children.

(2) Learning about Initiatives by Company

To learn about environment- and gender-friendly initiatives, the participants visited Nisshindo Co., Ltd. in the afternoon. The company domestically sells business cards printed on recycled paper made from banana stems from Zambia. Banana paper is made in the environmentally friendly mill that is powered by solar energy toward sustainable business. Mainly Zambian women work in the mill, which leads to creation of employment opportunities for women. There were many questions from the participants, e.g., “How are women’s wages that are paid for their works in banana paper production spent in their households?” and differences between the initiative by Nisshindo Co., Ltd. and conventional fair trade.

(3) Case of Sustainable Agriculture

On the final day of the seminar, the participants visited Ambitious Farm in Ebetsu City. The farm produces various vegetables in small quantities (70 species and 100 varieties per year), which is rare in Hokkaido. Unlike traditional Japanese agriculture that is mainly family business, Ambitious Farm, which acquired JGAP\* certification to be given to farms that work on food safety and environmental conservation, aims at creating a safe workplace where employees feel that their jobs are rewarding by clearly stating various work processes related to farm works. In the question and answer session, opinions, e.g., ensuring the sales channel of products and the work-life-balance of staff in the farm, were actively exchanged.

(\* GAP is an abbreviation for Good Agricultural Practice and means agricultural production process management.)

After completing the 5-day seminar, the participants embarked on their journeys back to their home countries on October 6th.

# Country Report



### Country Overview:

#### Kingdom of Cambodia

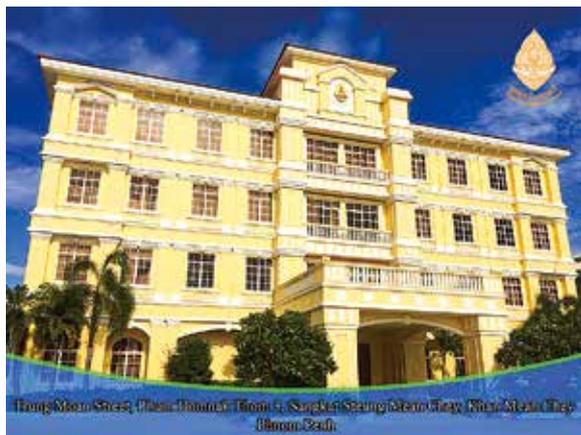
Human Development Index 2018	146 <sup>th</sup> /189
Gender Inequality Index 2018	114 <sup>th</sup> /189
Global Gender Gap Index 2019	89 <sup>th</sup> /153

### 1. Gender Equality Policy

The RGC is committed to promote positive social norms through the implementation of national laws, policies, plans and programs at all levels. The Ministry of Women’s Affairs, with partnerships and support from relevant ministries, institutions and partners, has contributed to foster gender equality in key strategic policies and

reform program such as:

- The MOWA’s five-year Strategic Plan for Gender Equality and Women’s Empowerment 2014-2018, Neary Rattanak IV (with Neary Ratanak V for 2019-2023 being developed), aims to strengthen institutional capacity to promote gender equality through program-based approaches and good governance. It includes comprehensive strategies to strengthen MOWA’s role as catalysts, policy advocates, advisors and facilitators for promoting gender equality.



MOWA

- Formulation of the first National Gender Policy to provide a longer-term policy framework for gender equality. The policy includes a definition of gender discrimination, based on Convention on the Elimination of all forms of Discrimination Against Women (CEDAW).

- GMAGs and their GMAPs as key strategies to accelerate gender mainstreaming across sectors and institutions.
- The National Action Plan to Prevent Violence Against Women sets out key priorities and actions for effective prevention of and response to GBV across multiple sectors.
- Gender is integrated into other key strategies and policies such as Population Policy, NSDP, and National Social Protection Framework.
- Gender is integrated into key reform processes such as Public Administration Reform, Public Financial Management Reform, Legal and Judicial Reform, Decentralization and De-concentration, and including through National Strategy to Promote Women in Management Positions at Sub-National Level (2017-2019).
- The Strategic Plan on Gender, Climate Change, Green Growth, and Disaster Risk Management have been integrated into the Cambodia Climate Change Strategic Plan 2013-2022 along with its implementation budget.



Consultative workshop with line-ministries on the Draft National Policy on Gender Equality and the National Strategic Plan 2019-2023 (NEARY RATTANAK)

### 2. Issues and Challenges to Integrate Gender Perspectives into SDGs

Women of reproductive age experience substantial risks associated with pregnancy and child birth. Maternal mortality rates continue to be high at 206 per 100,000 live births. Women in rural areas and poor



households are at greater risk. In 2012, only 13% of births in rural areas were attended by a doctor, compared to 30% in Phnom Penh. Cambodia is off track for the MDG target on maternal malnutrition. Malnutrition is considered the underlying cause in the 20% of maternal deaths, accounting for nearly 300 maternal deaths annually in Cambodia. The rate of anemia among pregnant women is 53%. About 6% of women have a height of less than 145 centimeters, which indicates they were malnourished as children. These women are also likely to give birth to small children.

Pyramid scheme of Female Student in education sectors, the formal technical and vocational education and training (TVET) system remains in its infancy, with gender gaps in TVET access, quality, and institutional capacity. Less than 1% of those enrolled in secondary education progress to formal TVET, which requires grade 9 completion. Key issues for women at the tertiary level include gender imbalance in types of study, lack of correlation between women's vocational education and labor market demands, financial barriers, lack of housing, and limited part-time programs. These gender gaps in basic education and TVET curtail the nature of girls' participation in and benefits from the labor market and thus the potential for economic empowerment.

### 3. Best Practices

Based on the National Action Plan to Prevent Violence Against Women 2014-2018 (NAPVAW II) and a five-year Action Plan to Prevent and Respond to Violence Against Children 2017-2021 The Ministry of Women's Affairs (MoWA) also developed and launched the 'Positive Parenting Strategy', together with training toolkits, in December 2017. This strategy serves as a guide for professionals working with children and families so they can provide more coordinated and quality support for parents and caregivers. Acknowledging the importance of supporting parents and caregivers to reduce violence and unnecessary family separation. The Project

Parent Positive Change (3years) lead by MoWA, implementation 6 provinces

through training, raising awareness, leaflets.

The family attending the program Changing mindset to reduce violence and tend to send children to school, warm care and take more time with their, children they provide more advices to children rather than being violent.



The family who attend a session on positive parenting

### 4. Useful Links

- Ministry of Women's Affairs of Cambodia  
<http://www.mowa.gov.kh/en>
- [www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english).
- [http://www3.weforum.org/docs/WEF\\_GGGR\\_2018.pdf](http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2018.pdf)

**Country Overview:****Republic of Indonesia**

Human Development Index 2018	111 <sup>th</sup> /189
Gender Inequality Index 2018	103 <sup>th</sup> /189
Global Gender Gap Index 2019	85 <sup>th</sup> /153

**1. Gender Equality Policies**

The implementation of gender mainstreaming in the country has been regulated through the Presidential Instruction No.09/2000 and the Regulation of the Minister of Home Affairs No.67 /2011. Gender Mainstreaming was integrated into the 2015-2019 National Medium Development Plan and regulated through Presidential Regulation No.2/2015. The government of Indonesia has been committed to realize and achieve Sustainable Development Goals (SDGs), shown in the President Regulation No.59/2017. The Indonesian SDGs indicators have been developed into 17 Goals, 169 Targets and 319 Indicators with the planning of gender disaggregation data collection.

**2. Issues and Challenges to Integrate Gender Perspectives into SDGs**

Gender issues on health sector remains as priority to improve for the achievement of Goal 3. The SDGs target for Maternal Mortality Rate (MMR) is 102, while the MMR of Indonesia reached 305 in 2015 (SUPAS, 2015). The death of bearing mothers happened in Hospitals (77%), caused by late medical handling, delayed family decisions and inaccessibility (SRS 2016). 37.2% or 4 from 10 pregnant women suffered from anemia, while 24.2% pregnant women suffered from chronic malnutrition. 1 out of 3 toddlers below 2 years old experienced stunting (Risksedas, 2018).

The national gender ratio of school participation shows equality in all range of age, but disparity exists in some parts of Indonesia. Gender bias in traditional custom and in school curriculum may discourage girls' motivation and dreams. Inclusion of

children with disabilities has been promoted, but realization remains lacking. The access of women obtaining higher degree education is higher than men, but this is not in line with the absorption of women's labour in formal sector, due to gender obstacles in pursuing career. The need of more flexible job causes women to dominate the informal sectors, which provide low care and protection. Indonesian women are still left behind in Science, Technology, Engineering and Math (STEM) due to gender bias in education majority, expertise and career. The challenge for Goal 4 and 5 SDGs is to increase women's participation in research and innovation, trainings, scholarships and work opportunities in STEM.

**3. Best Practices****The Ministry of Women Empowerment and Child Protection (MOWECP)**

The acceleration of gender mainstreaming has been done through an accountable Gender Responsive Planning and Budgeting (PPRG). The ministries/institutions at all levels and sectors have the obligation to integrate the experiences, aspirations, needs and problems of men and women in the process of planning, implementation, monitoring and evaluation of policies and programs.

The efforts to contribute to Goal 3 -Good Health and Well-being and Goal 5-Gender Equality address the problems of Maternal Mortality Rate, stunting, HIV and TBC. MOWECP provides trainings, coordination and practices in a targeted piloted area. Through technical guidance, the stakeholders from different sectors work together and have identified the gender gap in the health issues. The men's role has been emphasized to address MMR issue in Riau Islands, Bengkulu and DKI Jakarta, promoting men as partner, parent, family member, neighbour and public figure in the women life cycles. Gender analysis is the best approach to uncover gender bias and map the problems of stunting



and HIV/TBC issues. Gender planning and budgeting have been adopted to handle the issues.

Indicators have been set up by the stakeholders, which have to be achieved and filled by one another in a strengthened coordination, which in the previous time, has been done individually by each sector. Every training resulted follow up and lessons learns, which lead to better handling on the needs to sensitize more government officials on gender equality, to involve non-health sectors and working groups within government bodies, to involve more gender experts and to organize more coordination.

### Gender Studies Program – Universitas Indonesia

Gender Studies Program-Universitas Indonesia has been active in assisting communities/grass roots in villages for gender sensitivity and social inclusion, problems and potential identification/mapping. Trainings and discussions have been done in South Kalimantan, West Nusa Tenggara, East Sumba, Maluku and Lampung to increase the capacity for village facilitators in integrating gender and social inclusions into the natural resources' management and economic empowerment, especially in the forestry reformation, peat management, sustainable agricultures and preservation of weaving. The efforts contribute to SDGs Goal 1 No Poverty, Goal 2 Zero Hunger, Goal 3 Good Health and Well-being, Goal 4 Quality Education, Goal 5 Gender Equality, Goal 10 Reduced Inequalities, Goal 13 Climate Action, Goal 15 Life on Land, Goal 16 Peace, Justice and Strong Institution.

The keys to succeed the identification of needs, interests and problems are the approaches and methodology including:

- Various participative techniques of reflections and data collection: division of gender roles, role playing, spider webs, gender sensitive-village map sketching,

village planning study, community organizing with gender perspectives, culture and knowledge revitalization, history research, conflict resolution mapping.

- Segregated identification of injustice and inequality experienced by diverse groups including girls, adult women, elderly, poor women, poor men, women head of household, women labour and persons with disabilities.
- Comprehensive gender and social inclusion problems in health, education, economy, natural resources and environment (land, forestry, water and trash), cultures, village development planning, land and social conflicts, etc.



Gender Friendly Village Mapping Session in the Gender Training and Forestry Tenurial Reformation for Community in Lampung Province. Facilitated by Gender Studies Universitas Indonesia in 2017.

### 4. Useful Links

- United Nations Indonesia  
<http://www.un.or.id/what-we-do/sustainable-development-goals-sdgs>
- The Ministry of Women Empowerment and Child Protection  
<https://www.kemnpppa.go.id>



## Country Overview: Japan

Human Development Index 2018	19 <sup>th</sup> /189
Gender Inequality Index 2018	23 <sup>rd</sup> /189
Global Gender Gap Index 2019	121 <sup>st</sup> /153

### 1. Gender Equality Policies

After the SDGs were adopted at the United Nations in 2015, the Government of Japan established “SDGs Promotion Headquarters,” which is headed by the Prime Minister and consists of all ministers, in May 2016. The Japanese government’s guiding principles, “SDGs Implementation Guiding Principles” was adopted in December 2016. In connection with Goal 5 “Achieve gender equality and empower all women and girls,” the following three are specified as priority fields in “Development Strategy for Gender Equality and Women’s Empowerment.”

- 1) Respect for the rights of women and girls
- 2) Bringing out the potential of women
- 3) Advancement of women’s leadership in politics, economics, and other public fields

### 2. Issues and Challenges to Integrate Gender Perspectives into SDGs

The low interest in SDGs and Goal 5 in the Japanese society remains an issue. According to the results of the second “Consumer Survey on SDGs” conducted by DENTSU INC. for 6,576 people aged 10 to 79 years nationwide in 2019, the overall awareness rate of SDGs was 16.0%, and the awareness rate was lower in women than in men. In addition, the overall rate of people who practice something for 17 goals was 60.4%, but regarding the rate by goal, the rate for goal 5 was lowest, which revealed that in the Japanese society, people do not fully share a view that promotion of gender equality is essential for achieving SDGs, as compared with environmental protection and partnership promotion. In discussion related to SDGs, it is important how to deal with achieving gender equality as a cross-cutting issue.

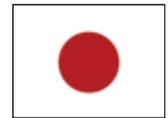
### 3. Best Practices Initiatives by international Cooperation NGO JOICFP

Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP) is a Japan-based NGO active in the field of sexual and reproductive health and rights (SRHR) established in 1968 and engages in activities to protect the lives and health of women, men and young people around the world. Using experiences and knowledge that Japan has acquired in the fields of family planning and maternal and child health since the end of the war, JOICFP provides various support, such as the development of human resources in the health field, material aid, and improvement in living standards through projects, in Asia and Africa in cooperation with international organizations, local governments, other NGOs, and local residents.

In Myanmar, the rate of women who die in pregnancy or childbirth is 2.5 times higher in the rural areas than in the urban areas, and the poor access to medical institutions and strengthening of medical services in the rural areas have become problems. JOICFP has provided training programs for health personels, including midwives, and health volunteers, and constructed or renovated rural health centers since the 2000s under the cooperation with international organizations, Official Development Assistance (ODA), and Japanese companies.

In addition, to improve the current situation where lack of knowledge on physical and emotional changes during adolescence and care during menstruation interferes with the school lives of female students, JOICFP conducted a project to introduce menstrual hygiene education in cooperation with the Japan International Cooperation Agency (JICA), Unicharm Corporation, and the Ministry of Health and Sports of Myanmar, and the classes on secondary sexual characteristics and care during menstruation were conducted for 99,920 female students and their parents or guardians. Consequently, the percentage of female students who answered that they are afraid of menstruation was decreased from 51% to 26.2%.

Recognized by its efforts in various activities and programs, JOICFP received a special award “SDGs Partnership Award” as one of



12 groups selected in the first “Japan SDGs Award” to be given to groups that make excellent efforts toward realization of sustainable society.



Picture: JOICFP

### **Ambitious Farm**

Ambitious Farm is an agricultural corporation, located in Ebetsu City in Hokkaido Prefecture and established in 2014, which produces and sells rice and vegetables. The number of women among 26 employees is 15 (as of October 2019). The farm produces rice, soybeans, and vegetables in 11.5 ha of paddy fields and 20.5 ha of fields, wholesales them to the contracted consumers’ co-operative, and is expanding the sales channel, e.g., direct sales to restaurants, online shopping, and regular direct sales. The mission of the farm has been “to create a new agriculture and practice agriculture attractive to the next generations,” and the farm aims to achieve Goal 8 “Decent work and economic growth” and Goal 5 “Achieve gender equality” in the SDGs.

Representative Akio Kashiwamura thought, “It is important to establish rules for respective works so that new farmers also can keep working long,” and acquired Japan Good Agricultural Practice (JGAP) certification to be given to farms that work on food safety and environmental conservation in 2017. In addition, Ambitious Farm is actively collaborating with local companies (bakeries and confectionery stores) by using its strength of producing various vegetables in small quantities. Having people know its products through “Futari no Marche” held once weekly between April and October, the farm has built

a win-win relationship that contributes to improving the value of local companies.

Ambitious Farm is also striving to create an employee-friendly working environment. For example, the employees can decide their working hours and days by themselves. The farm has a rule that an employee raising children “can go to pick up his/her child within 30 minutes” if he/she receives a phone call from his/her child’s nursing school because of the child’s disease. The farm is striving to make the working environment better for everyone as follows: carts that make employees easy to carry heavy vegetables in the workspace were introduced; and in introducing 2-ton trucks for carrying products, trucks, corresponding to the category of ordinary vehicles license and with automatic transmissions, were adopted. After these efforts for intangible factors were evaluated, the farm was also selected as one of “FY2017: 100 best Women’s Active Participation in Agricultural Management (WAP).”



Picture: Ambitious Farm

### **4. Useful Links**

- Gender Equality Bureau Cabinet Office  
<http://www.gender.go.jp/>
- Japan SDGs Action Platform (Ministry of Foreign Affairs)  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>
- Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning  
<https://www.joicfp.or.jp/jpn/>
- Ambitious Farm  
<http://ambitious-farm.co.jp/>



## Country Overview: Republic of Korea

Human Development Index 2018	22 <sup>nd</sup> /189
Gender Inequality Index 2018	10 <sup>th</sup> /189
Global Gender Gap Index 2019	108 <sup>th</sup> /153

### 1. Gender Equality Policies

6 Major Projects

1. Promote awareness and culture of gender equality
2. Ensure equal rights to work and opportunities
3. Enhance women's representation and participation
4. Create social infrastructure for work-life balance
5. Eradicate violence against women, and improve women's health
6. Strengthen the implementation mechanism for gender equality policies

Vision and Goal



### 2. Issues and Challenges to Integrate Gender Perspectives into SDGs

- Gender is cross-cutting issue
- K-SDGs neglected gender equality and women empowerment issues.
- Even in Goal no.5!  
For Example) Goal 5. Gender Equality  
Goal 5.1 & Goal 5.3
- K-SDGs do not present gender disaggregated data  
For Example) Goal 10. Reduce inequality  
Goal 10-2  
Goal 10-3

### 3. Best Practices

#### Korean Women's Association United (KWAU)

- K-SDGs have the several limitations.
- NGOs continuously do monitoring and policy suggestion
- KWAU organize task-force team to learn about SDGs and monitor the government process for K-SDGs.
- Civic society organizations from various fields work together to try to influence the government system's of implementation K-SDGs.

#### The Korean Institute for Gender Equality Promotion and Education (KIGEPE)

- Asian Gender Trainers' Network Program (AGenT)

##### ● Background

This year, the Korean Institute for Gender Equality Promotion and Education (KIGEPE) hosts the <2019 KIGEPE Asian Gender Trainers' Network Program (AGenT)> two times, in August and October. The program will be composed of orientation, lectures, seminars, workshops, study tours, and action planning. At the end of the program, a certificate will be awarded to each participant who has successfully completed all the scheduled sessions and activities of the program.

##### ● Goal & Objectives

This program aims to significantly enhance the professional capabilities of currently practicing gender trainers from governments and civil societies of fourteen Asian countries. On completion of the program, the participants will be equipped with:

- clearer vision of gender equality
- updated and contextualized knowledge and skills on gender training
- best practices and solutions for challenges
- and expanded network of gender experts in Asia.

##### ● Achievements

More than one hundred Asian gender



trainers (those who train, educate, or counsel on gender equality) applied for the 2019 AGenT (1st term and 2nd term) and a total of 42 participants from 14 Asian countries were selected and graduated from it. During the program, the participants were empowered in the five fields: knowledge, strategy, tools and methods, network, and vision of change. In detail, the workshop session provided them with updated knowledge and strategy on gender equality and gender advocacy, and tools and methods to educate gender to various audiences; the study tour and the action plan sessions helped them draw clear visions of change; and the whole course of the program encouraged them to build a Asian gender experts' network through which they can exchange experiences and insights even after the program ended. The online program evaluation shows that most of the participants were impressed by the new knowledge and participatory facilitating skills from the program and also by its positive, safe and mutual-learning atmosphere. At the end of each term, the participants presented their action plans on how to apply the learning from the AGenT to their work field and have been sharing the results of implementation of the plans on the Facebook group page.



2<sup>nd</sup> AGenT Group Photo at Jeonju city

**“GenderON” (KIGEPE)**

“GenderON” , is the only gender equality education contents service platform in Korea,

providing age appropriate and contextualized contents for gender equality education.

**Characteristics of “GenderON”**

Educators including school teachers and professional gender trainers can access to gender equality contents anytime, anywhere through Smartphones and PC.

It provides contents targeting different age groups including ‘Infant’, ‘Child’ ‘Teenager’ and ‘Adult’. Also “GenderON” provides contextualized educational materials targeting different occupations such as military, police, and public officials.

The contents are provided in diverse format including video, Cardnews, Webtoon and lecture which can be downloaded for free.

So far, the materials are in Korean language only but KIGEPE is planning to present materials in other languages soon.



**4. Useful Links**

- MOGEF  
<http://www.mogef.go.kr/eng/index.do>
- KWAU  
<http://www.women21.or.kr/kwau>
- ICC KIGEPE  
<https://www.facebook.com/ICC.KIGEPE>
- Memories of 1st AGenT  
[https://youtu.be/f3\\_NAyOSucA](https://youtu.be/f3_NAyOSucA)
- Memories of 2nd AGenT  
<https://youtu.be/1UpYznLE0yc>
- “GenderON”  
<http://genderon.kigepe.or.kr/>



## Country Overview:

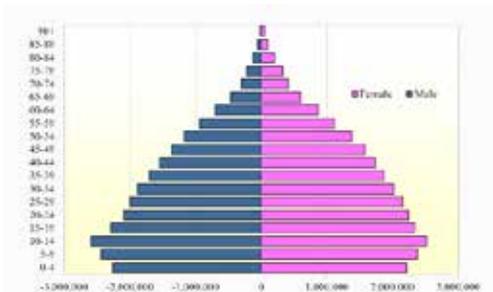
### Republic of the Union of Myanmar

Human Development Index 2018	145 <sup>th</sup> /189
Gender Inequality Index 2018	106 <sup>th</sup> /189
Global Gender Gap Index 2019	114 <sup>th</sup> /153

## 1. Gender Equality Policies

Myanmar National Committee on Women developed National Strategic Plan for the Advancement of Women (2013-2022) for the sake of Myanmar women and girls especially to improve gender equality and women empowerment on the areas of education, health, economic, politics and to eliminate all of form of violence against women. The plan calls for enabling systems, structures, and practices to carry out the 12 priority areas of the Beijing Platform for Action. With the guidance of MNCW, the following four national level technical working groups (TWGs) are carrying out for the implementation of these 12 priority areas;

1. Gender Mainstreaming
2. Women's Participation (political and economic arenas)
3. Women, Peace and Security and
4. Violence Against Women.



Population of Myanmar by age and sex, 2014 Census

## 2. Issues and Challenges to Integrate Gender Perspectives in SDGs

To reach the gender equality (SDG-5), the Republic of the Union of Myanmar is giving priority on women affairs in cooperating and coordinating with international organizations, ASEAN, local NGOs, INGOs to ensure gender

equality and women empowerment. However, there are still issues and challenges that need to be solved in women affairs. Two main challenges are:

- need to build additional capacities and mechanisms within government institutions;
- limited fund, internal capacity, mechanisms and resources in government's nodal department for implementation.

Even though, Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement (MSWRR) is implementing a lot of programs and has got achievement on the programs to some extent.

## 3. Best Practices

Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement, a focal ministry for the implementation on gender issues:

- has established One Stop Women Support Centers and 24 hours helpline Service;
- conducted vocational trainings and psycho-social supports to women and girls in IDP Camps from 2017 to at present;
- initiated MCCT Program;
- Integrated Case Management System.

In the aims of providing physical, psycho-social support, health care services, legal aids and counseling for the women survivors, four One Stop Women Support Centers are established in four states and regions started from 2016 in cooperating with related ministries and partner organizations.

MSWRR has conducted 24 hours helpline service on November 29, 2016 to solve the complaints from the people across the country on the cases of any violence, abuse, exploitation on Myanmar women, girls and persons with disabilities, child rape cases, and Social Protection Cash Transfer Programmes. In solving the complaints, Case Managers, Sign Language Supporters, ethnic officials from Department of Social Welfare (DSW) provide the people the services on temporary



shelters, basic needs, legal aids, health care services, financial aids as well as livelihood activities in cooperating with other Ministries and partner organizations.

Besides, 11 School for Home Science have also facilitated by the Ministry to provide institutional based as well as community based vocational trainings in the objectives of creating more job opportunities, empowerment for women. These vocational trainings are also conducted across the country including IDP Camps.

One of the Social Protection Programs undertaken by the Government in the areas based on low nutrition status is Maternal and Child Cash Transfer Program (MCCT) for pregnant women and their new born babies under 2 years age. MCCT is initiated at Chin State, Naga Self Administrative Region, Rakhine State in 2017. Now, the program is expanded to Kayin State and Kayar State in 2018 and at the present, DSW is initiating assessment to expand the areas of Shan State and Ayeyarwaddy Region. Now, each beneficiary is provided 15,000 MMK per month as a quarterly payment and nutrition awareness trainings in cooperating with concerned Ministries. The Government is intended to implement this program across the country.

Moreover, MSWRR is carrying out Integrated Case Management System at 27 townships and has developed Standard Operational Procedure for Case Management System in 2015. At first, DSW implements it on child welfare services. In 2018, the system is upgraded to women issues. At present, we have nearly 200 case managers in all States and Regions and the amendment of SOP for GBV is ongoing.

Myanmar Women Entrepreneurs' Association, have been running following activities:

- Donation for every year for MWEA's fostering mother of Education Program for

young female students from rural areas.

- Financials Management Project for grass roots women from the Villages.
- Community development activities, such as conducting leadership training, Mentoring and Coaching for Women Entrepreneurs and women start up owners in the Project for Economic Empowering Women at Yangon's Women Entrepreneurs Development Center (WEDC).



Mentoring Training for Women Entrepreneurs by MWEA

#### 4. Useful Links

- UNFPA Myanmar  
<https://myanmar.unfpa.org>
- Human Development Report 2019  
[http://hdr.undp.org/sites/all/themes/hdr\\_theme/country-notes/MMR.pdf](http://hdr.undp.org/sites/all/themes/hdr_theme/country-notes/MMR.pdf)
- Myanmar National Portal  
<https://myanmar.gov.mm/en/ministry-of-social-welfare-relief-resettlemen>  
<https://www.dsw.gov.mm/>
- MWEA Facebook  
<https://web.facebook.com/profile.php?id=100013186298471>

**Country Overview:****Socialist Republic of Viet Nam**

Human Development Index 2018	118 <sup>th</sup> /189
Gender Inequality Index 2018	68 <sup>th</sup> /189
Global Gender Gap Index 2019	87 <sup>th</sup> /153

**1. Overview of Gender Equality Policy**

In order to ensure the implementation of international conventions, including the Sustainable Development Goals, Vietnam has specified in its laws and policies. Vietnam is also doing the best work to gain SDGs goals and ensure social security for example:

- The national poverty rate decreased from 49.2% (1992) to 14.8% (2008) and remained at 2.8% in 2014;
- Vietnam completed the 5th goal of MDG, reducing three-year maternal mortality rates by 2015 compared to 1990;
- Proportion of women in the National Assembly term 2016-2021 reached 26.7%; 12/30 ministries and branches have female leaders;
- Women who are business owners increase, currently 31.6%;
- Woman has 6 months and her husband has at least 5 days off work to take care their new born baby;
- Adjust the retirement age of men and women

**2. Issues and Challenges to Integrate Gender Perspectives into SDGs**

In Economic Arena: Income disparity between men and women in the same job position still exists, and the opportunity for women to access high-income jobs is still lower than that of men and women workers. High prices like male workers are more vulnerable when businesses need to cut manpower. Especially now, the average income of female workers is always lower than men.

National competitiveness has not been much improved, especially in terms of economic institutions, infrastructure and technological innovation. Currently, agriculture, forestry and fisheries account for nearly 14% of GDP but 70% of the population lives in rural areas. The informal sector alone (street vendors, spontaneous small businesses) has a large number of employees with 11 million jobs out of a total of around 50 million. Politics and Society: Gender discrimination, male preference over women; Female leaders are lower than male leaders; Women are mainly concentrated in the private sector, small and medium enterprises; The female labor force participation rate in Vietnam is 72.9%, lower than male participation rate is 83.0% and there is a gender gap in wage payment. Women still have to make sure most of the family work is unpaid; Early marriage is still happening in rural areas, high mountainous areas and regions in remote areas, there are many ethnic minority people; High ratio at birth between boys and girls (113,6 boys per 100 girls in 2018);

**Multidimensional Poverty:**

The two groups lagging behind in Vietnam are Ethnic Minorities and rural-to-urban migrants. Inequality for ethnic minorities is a persistent problem, It has improved, but the gap is still large. While the national income poverty is 7%, this rate among ethnic minorities is 23%. The reasons for this situation are geographical location, structural constraints, and social prejudices about empowerment, opportunities and access to public services.

Migrants are usually not poor in income, but multidimensional poor and there is a big gap between migrants and local people.

Climate change: Viet Nam is one the countries in the world which are most affected by climate change. Change the climate has been affecting us every day, especially women.

Viet Nam ranks among the 12 countries



with the highest levels of exposure to natural disasters in 2018. Due to women's roles as care-givers, to her natural disasters occur, they are more likely to make sacrifices, such as being the last to leave their house as they help the children and the elderly to a safe place first. Until recently, women's role in disaster risk reduction, preparedness and response has been rarely recognized.

### 3. Best Practices

1. Raising awareness and actions of the whole society on SDGs of Vietnam such as recognition of women's significant role in disaster risk management at different stages (prevention, preparedness, response and recovery). In 2013, VWU became an official member of National Steering Committee for Natural Disaster Prevention and Control, and local Committees for Natural Disaster Prevention and Control, Search and Rescue at all levels.



First aid training for women before rainy and flood season

2. Implementing policies of sustainable poverty reduction, such as: strongly increase the quantity of farms, encourage household involve into economy; maintain and develop traditional villages in terms of products that the market is in demand such as: rattan and bamboo handicraft villages, mushroom, planting flowers, etc.



3. Improve the quality of education at all levels to improve the intellectual level and quality of human resources. Enhancing communication on climate change, limiting plastic waste.



Club of "women minimizing the use of plastic bags" in Can Tho City

4. Strengthen mobilization of domestic and foreign financial resources, especially resources from the private sector multiply to implement SDGs.

### 4. Useful Links

- Sets of Sustainable Development Indicators in Vietnam: Status and Solutions  
<http://www.mdpi.com/2227-7099/6/1/1>
- Open Development Vietnam  
<https://vietnam.opendevlopmentmekong.net/topics/sustainable-development-goals/>
- The Global Gender Gap Report 2018  
[http://www3.weforum.org/docs/WEF\\_GGGR\\_2018.pdf](http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2018.pdf)

---

本報告書の内容は、「2019年度アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」の報告資料をとりまとめたもので、必ずしも国立女性教育会館の統一的な公式見解ではありません。

本報告書に記載されている内容は、国立女性教育会館の許可なく転載できません。

This report is based on reports and discussion of “2019 Seminar for Gender Equality Officers and Women Leaders in the Asia Region” sponsored by NWECC. The views expressed in the report do not necessarily reflect those of NWECC.

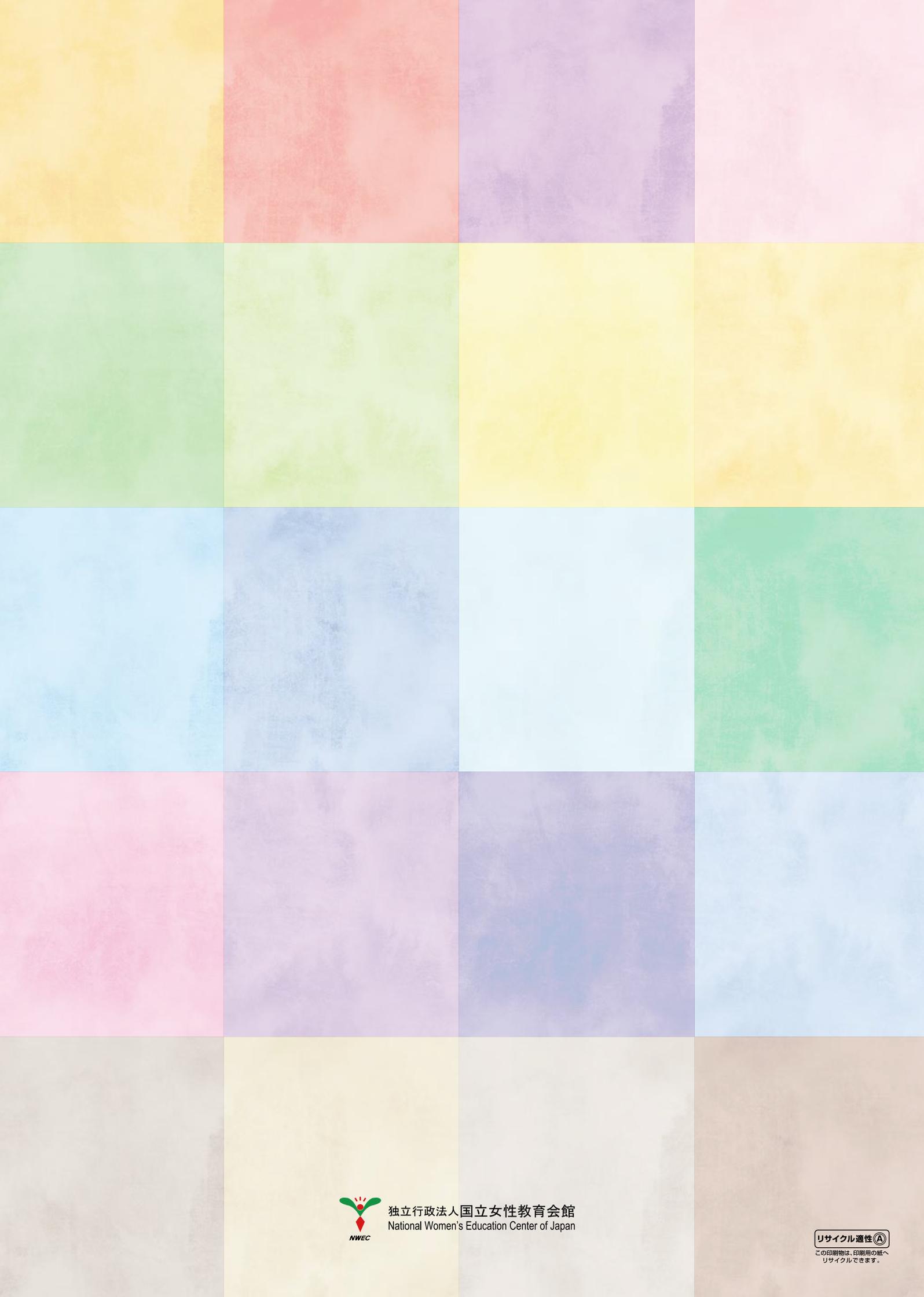
The contents of this report may not be reproduced without permission from NWECC.

発行：令和2年3月

編集：独立行政法人国立女性教育会館（NWECC）

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

Published by National Women's Education Center of Japan (NWECC), March 2020  
728 Sugaya, Ranzan-machi, Hiki-gun, Saitama, 355-0292, Japan



独立行政法人国立女性教育会館  
National Women's Education Center of Japan

リサイクル適性   
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。